

第13回 岐阜県新型コロナウイルス感染症 教育推進協議会 議事要旨

日 時	令和3年8月19日(木) 16:00~17:00
場 所	県庁4階 特別会議室
出席者	<p><委員> 16名 松川 禮子 委員、益子 典文 委員、山口 嘉彦 委員、 堀 貴雄 委員、水川 和彦 委員(山本譲氏 代理出席)、 名取 康夫 委員、石田 達也 委員、高橋 清仁 委員、 服部 照 委員、下屋 浩実 委員、加納 顯 委員、 河合 直樹 委員、青山 節児 委員、木野 隆之 委員、 村上 啓雄 委員、竹内 治彦 委員 (青山委員、木野委員はWeb会議システムで参加)</p> <p><県> 知事、河合副知事、教育長(委員) 環境生活部長、私学振興・青少年課長 副教育長、教育次長、義務教育総括監、教育総務課長 他</p>
議題	<p>議題1 県内及び学校における感染状況について 議題2 新学期を迎えるにあたっての学校の対応について 議題3 「まん延防止等重点措置」区域指定時の学校の対応について</p>
配布資料	<p>資料1 県内及び学校における感染状況について 資料2 新学期を迎えるにあたっての学校の対応について 資料3 「まん延防止等重点措置」区域指定時の学校の対応について 参考資料 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言等を踏まえた小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(令和3年8月17日)</p>

議事概要

- ・ デルタ株に対する不安がかなりあるが、基本に立ち返って、これまでの感染対策を行うことが大切である。デルタ株はウイルスが濃いため、対策のスキを見逃さないと考えるとよい。
- ・ 新たな対応として、換気状態の再度の確認、学校全体でコロナ対策に取り組む意識づけをする啓発物の掲示、消毒については「教室に入るときは必ず手指を消毒しましょう」と呼びかけ、一週間ごとの消毒液使用量を確認など、目に見える対策とともに、先生が生徒の模範となって示してほしい。
- ・ まん延防止等重点措置における時短要請地域に指定された市町村における学校給食は、これまで通り、黙食の徹底でよいのか。
 →県では、感染状況を徹底的に分析しており、今まで通りの感染予防策を徹底すればよい。
- ・ 現状の感染状況から見れば、タブレット端末の整備も完了しており、オンライン授業を

実施していく方向で進めていきたい。長期休業後の生徒の様子や状況を把握することは重要であるため、時差登校や希望者は個別相談を設けるなど、検討を進めていく。

- ・ 方針に基づき、各校で感染対策を徹底した上で、3年生の進路実現に向けて影響が出ないようにしたい。
- ・ 小学校低学年でのオンライン授業の実施は難しい。実施にあたっては、市町村の実情を踏まえて対応していきたい。
- ・ 小中学校は各地域において状況が異なる。それぞれの市町村教育委員会が分散登校やオンライン授業等の対応をしていくことになる。感染防止策を徹底して学校再開をしたい。
- ・ オンライン授業のポイントは、教員が課題を出し、学習者がそれを教員に返し、教員がフィードバックするという行程でワンサイクルであること。この一連の学習により、徐々に学習習慣は取り戻すことができる。
- ・ 家庭あるいは友人間において、気の緩みがあるために感染が広がっており、家庭での感染対策の徹底を学校から発信することにより、緊張感につなげていきたい。
- ・ 市町村と市町村教育委員会とが連携することにより、感染防止のPRが重要であると感じている。2学期の始業に向けて、しっかりと連携していきたい。
- ・ 学校においては、子供たちが登校してくるようになった時に「今までとは違うぞ」という意識付けが必要である。その意識が子供の声となり、家庭、県民に伝わっていくことで、大きな影響がある。そういった面で、学校での感染防止対策が、全県民に伝わっていくことができるよう、学校関係者一丸となって取り組んでいきたい。
- ・ 今回の会議では「原則」について示された。「原則」はこうだが、「例外」で何とか頑張りたいという意見があるが、感染のカーブが上がっているときは、かなり市中で感染が広がっているので、無理をせず、できる限りのことを自重する方がよい。
- ・ 若年層のワクチン接種について、現在12歳以上にはワクチン接種券が届いている。学校として、どう対応するべきか。
 - 接種に当たっては、丁寧な情報提供が必要。接種を希望する人にはしっかり接種できる体制を整えていってほしい。
 - 児童生徒への接種については、学校での集団接種によるものではなく、各々が接種することとなっており、また、15歳以下の接種においては、保護者の同意と同伴による接種となっている。家庭全体で接種へのムードづくりができるとよい。
- ・ プライバシーへの配慮も必要な部分ではあるが、教職員の接種率について把握はできているか。
 - 接種率は7～8割程度と見込んでいる。
- ・ 原則があれば例外があるが、今はできる限り例外は抑え込み、原則に基づいてきっちりやっていくことが重要な時期である。
- ・ 県では、9月12日までまん延防止重点等措置区域になっているが、この措置が延長されるということも視野に入れながらしっかりした対策が必要である。県内すべてがオール岐阜で一緒に取り組んで、例外を抑えていただきたい。しかしながら、現場によっては状況が異なるものもあるので、それぞれの考えは尊重していきたい。